

「自分の命、みんなの命」

作：白川優子

語り：斉藤由貴

あなたは自分のことをどれくらい知っていますか？
どれくらい、自分のことが好きですか？

時には立ち止まって、目を閉じ、深呼吸をして、
自分自身を見つめてみませんか。
どんな自分が見えますか？
どんな自分を感じますか？

他の誰でもない、この世で唯一のあなた自身です。
あなたには、他の人にはない、あなたの個性があります。

それはあなたの命の価値でもあります。

私は世界のたくさんの紛争地で看護師として働いてきました。
罪のないたくさんの人が血を流し、亡くなっていくのを見てきました。

シリアのあるお父さん。
地雷を踏んで大量出血で病院に運ばれてきた時、
すでに息を引き取った後でした。
家族で危険な地雷原を移動する時、
子どもたちを守って自ら先頭を歩き、
犠牲になったのです。

イラクで出会った女の子。
武装組織の戦闘員であった両親を自爆テロで亡くし、
彼女も大けがを負っていました。
ベッドの上で「ママ、ママ」と泣く少女に、
かける言葉がありませんでした。

この世に存在する一つ一つの命、
その価値は平等でそれぞれに尊いものです。
他人が傷つけたり、奪ったりしてよい命など一つもないのです。

この広い世界で、人種、国籍、宗教、歴史、文化、信条など、
たくさんの違いを持った人たちが存在しています。
たとえば、同じ環境や境遇で生きている親子ですら、兄弟ですら、夫婦ですら、

みなそれぞれに考え方や価値観などに違いがあっっておかしくありません。
そして、お互いにどんなに違えども、あなたを含め、
それぞれに美しい個性があり、与えられた命の価値は、
生まれたときからその生を閉じるまで、全て平等です。

人の違いを争いや攻撃の種にするのではなく、
まずは違いがあることを理解し、
尊重し合うことができたなら素敵なことだと思うのです。
そして、自分と相手のお互いの命の価値を知り、
大切にし合えたら、戦争などなくなるのではないかと考えています。

自分の命、みんなの命——。
その価値は同じだと考えることが、
争いのない未来につながる一歩だと信じて。